

2 学年 1 組 学級活動（2）指導案

1. 日時・場所 令和2年10月22日（木） 11時35分～12時20分 2年1組教室

2. 題材 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」
（イ よりよい人間関係の形成）など

<p style="text-align: center;">学級目標</p> <p>○たのしくべんきょう！ ○みんなできょう力！ ○げん気にあそぶ！ 2年1組</p>
--

3. 題材について

（1）児童の実態

学校の新しい生活様式が定着するために、「なぜそうすることが必要なのか」「しない場合にどうなるのか」「今までと違うところはどこか」など、なるべく子ども達自身で考えることができるよう指導するところから、本学級の学級での指導はスタートしている。従来のような子ども達同士の自然な関わりが制限される中、子ども達同士の関係づくりのために、教師の提案による手遊びやクイズ、折り紙作品作りなど、できる範囲で学級の雰囲気や関係づくりの時間を設定してきた。

学校の新しい生活様式や、実施のための考え方が少しずつ浸透し、行動の変容が見られた頃、「このクラスがどんなクラスになったらよいか」という問いを子ども達に投げかけ、出てきた意見の集約と学年目標、教師の願いを掛け合わせる形で、本学級の学級目標を設定した。たのしくべんきょう！みんなできょう力！げん気にあそぶ！2年1組が、学級目標である。

学級活動(1)では、情勢下から係活動に入ることが難しいという判断のもと、まずは当番活動から始めることとした。活動を実施する際には、一つ一つの活動内容と、学校の新しい生活様式とを見比べて、実施できるものとできないものを分類した。できないものについては、どのような工夫をすればできるようになるのかをクラス全員で考えて意見を出し、各当番で工夫して活動ができるようになってきた。係活動については、同様の流れに当てはめて、9月中旬頃より少しずつ活動し始めているところである。

（2）題材設定の理由

新しいクラスに慣れたことや友達との関わりが増えてくるにつれて、子ども達同士の関わりも広がってきた。友達が困っていると、声をかけに行ったり、クラスのためにできることは何かと考えて行動したりと、意識が「自分の事」から少しずつ「友達」「クラス全体」へ向かい始める素地が育ち始めている。また、友達と関わることに喜びを感じ、明るい表情で学校生活を過ごす子が増えてきている。一方で、友達の失敗に対して相手を馬鹿にしたような言葉を使う子や、相手から言われた言葉をネガティブに受け取ってしまい、上手に友達と関わりにくくなってしまいう子などが出てきている。

本題材では、このようなクラスの実態を捉えて、よりよい人間関係の形成の内容を取り上げる。人間関係の基礎となる言葉について学習することで、学級活動(2)のよりよい人間関係を築くためにどのような言葉を使うことが大切なのかをクラス全員で考え、自分で目標を決めて実践できるようになってほしい。終末に向けた「見つける」の活動では、受け手の立場で「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」の感じ方の違いについて考える。この活動の理解の仕方が、終末での一人一人の具体的な意思決定に繋がってくることを考えている。確かな理解につなげるために、ここでは板書の前にパワーポイントのスライドを提示する。スライド上では、文字による言葉だけでなく子どものイラストと吹き出しを使用することで、より実際の場面をイメージしやすくするねらいがある。同時にこの展開の場面を、本時の視点とした。

何気なく使っていた言葉が相手を傷つけたり、喜ばせたりすることもできるということを理解して、言葉を選ぶことを意識できるような子になってほしいと考える。

4. 評価規準

【学級活動「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準】

(2)	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
1年・2年	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組む、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

5. 活動の実際

(1) 事前の指導

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	資料	☆目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
朝の時間	・言葉遣いについてのアンケートに答える。	○普段、子ども達同士で使用している言葉遣いの様子について、具体的な場面を思い起こせるよう助言する。	アンケート (児童の意識を高めるための資料)	☆アンケートに答えることで、自分の言葉遣いについて進んで振り返りろうとしている。 【主体的態度】〈アンケート〉

(2) 本時の展開

①ねらい 言葉によって自分や相手が嬉しくなったり傷ついたりすることを知り、よりよい人間関係を築くために言葉の使い方について考え、自分なりのめあてを立て、実践しようとする。

②展開

	児童の活動	○指導上の留意点	・資料	☆目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ	1. アンケートの結果を見て、気付いたことを発表する。 2. 言葉には、ふわふわ言葉とちくちく言葉があることを知る。	○アンケート結果から、友達言葉で傷ついている仲間がいることに着目させ、言葉遣いについての児童の意識を高める。 ○結果から、学級全体の課題としてだけでなく、自分の課題として捉えることができるようにする。 ○アンケートの結果から、ふわふわ言葉とちくちく言葉を分類できるようにする。	・アンケート結果 (児童の意識を高めるための資料)	☆アンケート結果を見て、相手の言葉によって傷つく仲間がいることを理解している。 【知識・技能】 〈観察、発言〉
ふわふわことばと、ちくちくことばについて考えよう。				
展開 さぐる 見つける	3. 具体的な場面を想定し、ふわふわ言葉とちくちく言葉を使った時の、言われた側の気持ちの違いについて考える。 4. 日常生活を振り返り、どのようなふわふわ言葉とちくちく言葉があるか話し合う。	○日常生活の中で、ふわふわ言葉とちくちく言葉が使われた時の、受け手の感じ方の違いについて比べられるようにする。 ○提示したものの他に、どのようなふわふわ言葉とちくちく言葉があるのか想起できるよう、自分達の日常生活を振り返るよう言葉かけをする。	・パワーポイント スライド (ねらいを焦点化するための資料)	☆友達と仲よくするには、相手が嬉しくなる言葉を使うことが大切であることを理解している。 【知識・技能】 〈観察、発言、学習カード〉
終末 決める	5. どのような言葉を使うと友達と仲よく生活が送れるか、自分のめあてを考えて、決める。	○自分が意識をもって取り組んでいけるよう、個の実態に合わせた具体的なめあてを立てるよう助言する。 ○めあてが決まらない児童には、板書の具体的な言葉を選んでもよいことを助言する。	めあてカード (実践への意欲付けのための資料)	☆友達と仲よくなるための言葉遣いについて考え、自分なりのめあてを立てている。 【思考・判断・表現】 〈観察、めあてカード〉

③本時の視点

- ・終末までの学習過程が、児童一人一人の具体的な意思決定を促すための効果的な流れとなっていたか。
(みんなで考えて、自分で決める)

④板書計画

「ふわふわことば」と「ちくちくことば」について 考えよう。

アンケートかけか

1. 友だちに言われたことばで、うれしい気持ちになったことはありますか。

はい いいえ

人 人

2. 友だちに言われたことばで、いやな気持ちになったことはありますか。

はい いいえ

人 人

うれしい気持ちになることば

じょうずだね

すごいね

いっしょにやろう

いいね

ふわふわことば

いやな気持ちになることば

へたくそ

できないの

いっしょにあそびたくない

しらないの

ちくちくこと

こんなとき どんな気持ち？

① きんちょうして、はっぴょうできないとき

ふわふわことば
「がんばって」
→うれしい
→言ってみようかな

ちくちくことば
「早く言ってよ」
→もっと言えなくなる
→いやな気持ち

② 体いくで、しっばいしてしまったとき

ふわふわことば
「だいじょうぶだよ」
→うれしい
→がんばってみよう

ちくちくことば
「なんで そんなこともできないの」
→いやなきもち
→やる気がなくなる
→なんだよこいつ

ふわふわことば と ちくちくことばを 見つけよう！

ふわふわことば

- いっしょにあそぼう
- だいじょうぶだよ
- できるよ
- いっしょに帰ろう

ちくちくこと

- 〇〇とはあそばない
- 〇〇は、こないで
- へんなの
- だめだよ！(つよく)
- うるせー

じぶんの めあてを立てよう！

(3) 事後の指導

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
授業後から	・意思決定しためあてを意識して実践する。	○めあてを掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。	☆意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉
1週間後の帰りの会	・実践について振り返り、今後の見通しをもつ。	○帰りの会等で振り返りを行う機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たにめあてを立てて取り組んだりできるようにする。	☆実践を振り返り、今後も言葉遣いに気を付けて、友達と仲よく学校生活や日常生活を送ろうとしている。 【主体的態度】 〈学習カード〉

6. 資料

(1) 児童の意識を高めるための資料

アンケート

1. 友だちに言われたことばで、うれしい気持ちになったことは ありますか。
はい いいえ
2. うれしい気持ちになったことばは、
どんなことばですか。
3. 友だちに言われたことばで、いやな気持ちになったことは ありますか。
はい いいえ
4. いやな気持ちになったことばは、
どんなことばですか。

(1) 児童の意識を高めるための資料

友だちに言われたことばで、うれしい
気持ちになったことはありますか。

はい

いいえ

〇〇

人

〇〇

人

友だちに言われたことばで、いやな
気持ちになったことはありますか。

はい

いいえ

〇〇

人

〇〇

人

(2) ねらいを焦点化するための資料(スライド 3 / 10 ページ掲載)

①

きんちょうして ほんがらできないとき



(3) 実践への意欲付けのための資料(めあてカード)

ふわふわことば と ちくちくことば

月 日 曜日

2年 組 ^{ばん}番 名前()

1 めあてを立てましょう。

★どんなことばを、友だちにたくさん言ってあげたいですか。

「 _____ 」です。

いゆうは、 _____

_____ からです。

2 言えた日や、言われてうれしかった日を、書いてみよう。

言 えた 日	月 日	月 日	月 日
言 われ た 日			
言 えた 日	月 日	月 日	月 日
言 われ た 日			

【かんそう】 言えたとき、言われたときの気持ちをはりかえって、書いてみよう！

とくべつかつどう

アンケート

2年 組 番 名前()

1. 友だちに言われたことばで、うれしい気もちになったことは
ありますか。

はい

いいえ

2. うれしい気もちになったことばは、どんなことばですか。

3. 友だちに言われたことばで、いやな気もちになったことは
ありますか。

はい

いいえ

4. いやな気もちになったことばは、どんなことばですか。